

1. 市電の現状と課題

■運輸成績の現状

- ◇ 利便性向上策の効果等により、近年市電利用者数は増加傾向にある。
- ◇ 既存車両の半数以上が車齢50年以上を占めており、平均車齢は約41年と老朽化が進行。

項目	H29年度	備考
営業キロ	12.1km	
電停数	35電停	
車両数	ワゴン	36両 36編成
	連接	2両 1編成
	低床	16両 8編成
年間利用者	11,094千人	30,394人/日
年間運賃収入	1,595,378千円	



■市電の課題(いただいたご意見)

- ◇ ラッシュ時には健軍町電停、新水前寺駅前電停等、一部の電停では満車で乗車できない状態が発生しているがどのように対応しているのか。
- ◇ 主に外国人観光客向けに2次元バーコードを使った運賃收受の導入を検討してはどうか。
- ◇ 事業継続性の観点からも、今後、正職員の採用についてどのように考えているのか。
- ◇ 乗務員によってサービスレベルが異なる。サービスレベルの全体的な向上を図る必要があるのではないか。



2. ご意見に対する回答

■ご意見に対する回答

- ◇ ラッシュ時の対応について、3~4分間隔で運行しており、これ以上の過密ダイヤは安全運行に支障をきたす。混雑の緩和策として、平成29年から輸送力の高い5014号車をラッシュ時に投入し運行している。今後も輸送力の高い多両連接車の導入を検討する必要がある。
- ◇ 商業向けに開発された2次元バーコード決済システムにおいては、運賃処理時間が交通系ICカードに比べ長いので 速達性の低下につながる。このため、外国人観光客向けの交通系ICカードを案内したい。
- ◇ 正規職員の採用については、現状では厳しい状況であり、事業の継続性や人材育成の観点からも、嘱託運転士の安定雇用につながるような処遇改善等について、検討を進めている。
- ◇ 乗務員サービスの向上、安全運行の徹底のため、研修計画に基づき、乗務員向けの研修を行い更なる安全運行の徹底及びサービスの向上に努める。

3. 市電の機能強化策

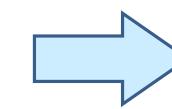
■輸送力向上やバリアフリー化に向けた車両更新

- ◇ 既存車両の長寿命化及び車両更新による超低床車両・多両連接車の導入を検討。
- ◇ 超低床車両9701号車の大規模改修を実施しており、2019年夏の復活運行を目指している。



■クロスシート車両の改善

- ◇ クロスシートをロングシート化することにより、輸送力の向上、快適性の向上が見込まれるため、4年間の年次計画で4両の車両改造を実施予定。



6人/両の
座席定員の増加

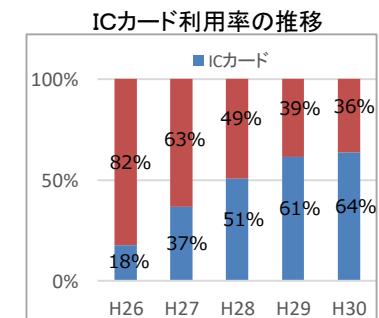


■電停バリアフリー化の推進

- ◇ 「熊本市 電停改良計画」に基づき、電停のバリアフリー化を実施。
- ◇ 現在、10電停/35電停が整備済み。河原町電停、通町筋電停を整備中。今後、辛島町電停を整備予定。

■ICカードの普及及び利用促進

- ◇ 平成26年3月に全国相互利用ICカード「でんでんnimoca」を導入。
- ◇ 更なる普及促進のため販売窓口の増設を検討（現在は交通局、交通センター、熊日プレイガイドの3か所で販売）。
- ◇ 利用促進のため、期間限定のポイント付与率のアップ、nimoca加盟店と連携したnimoca決済時のポイントアップ等、乗車ポイントの活用を検討。



■定期券等の販売窓口におけるクレジット決済システムの導入

- ◇ 利用促進や利便性向上のため、クレジット決済の導入を検討。
- ◇ その他キャッシュレス決済(電子マネーなど)については調査・研究を進める。



■市電1日乗車券の販路拡大

- ◇ 現在、熊本駅総合観光案内所、桜の馬場城彩苑総合観光案内所、熊日プレイガイドで販売。
- ◇ ホテル・旅館における販売の検討に着手し、販売窓口の増設を進める。



4. 今後の方針

■経営戦略への反映

- ◇ それぞれの取り組みについて検討を行い、平成31年度策定予定の「経営戦略」の中に可能な限り反映。

※「経営戦略」…公営企業が将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画